

たりするものです。そんなとき、子どもに向かって「絵本の内容わかってる？」と確認をしたり、説明をしたくなる人もいるでしょう。でも、そんなことをする必要はありません。もちろん、目に見えるリアクションがあれば嬉しいですけど、何もなくてもいいのです。絵本の言葉と絵は、子どもの心に確実に届いているからです。それで十分だからです。

私は、息子が生まれて間もないころから、松谷みよ子さんの「あかちゃんの本」シリーズを読んであげていました。その中でも、息子が選ぶというより私自身が好きで、『おさじさん』を息子が4歳になるころまでよく読みました。「おやまを こえて のはらを こえて」やってきたおさじさんが、うさぎのぼうやにあつあつのおかゆを食べさせてあげるお話です。読んでいた当時、息子は大きく反応していたわけではありませんでした。それから時がたって、小学4年生になった息子が料理に興味を持ち、初めてレシピ本を目にしたときに、私にこう言ったのです。「だから、おさじって言うんだ」と。私は「おさじ」と聞いて、幼いころと一緒に読んでいた『おさじさん』のことを言っているとすぐにわかりました。それまでスプーンという呼び名でふれていた息子にとって、「おさじさん」と「大さじ・小さじ」がつながった瞬間でした。目立った反応がなくても、絵本の